

報道用資料

□記者会見

□記者発表

■配布

平成21年11月27日

件名「松江市一斉ノーマイカーウィーク」社会実験の実施結果について

[内容]

平成21年10月19日(月)～23日(金)の5日間に実施した松江市一斉ノーマイカーウィーク社会実験の実施結果(渋滞状況、自動車交通量、自転車交通量、バス乗降客数、CO2削減量)についてとりまとめましたのでお知らせします。

市民のみなさまが、少しずつ力を集結することでCO2削減や渋滞緩和、公共交通の利用促進に大きな効果をあげることができました。

今後も引き続き松江市のより良好な交通と環境の実現に向けた市民・事業所への意識啓発を継続して実施していく予定です。

[参加報告者数]

・約100社、期間中(5日間)延べ約3,200人

※事後の事業所アンケート結果(市内の375事業所に実施)より集計した参加者数(マイカーからの行動変容者のみ)

[ノーマイカーウィークの効果]

○効果1: 渋滞が大幅に減少 ※事前: H21.10.7(水)、期間中: H21.10.21(水)の調査データ

・宍道湖大橋北詰(東進)の渋滞が約70%減少、JR松江駅東(南進)の渋滞が約50%減少等

○効果2: バスの乗客数、自転車利用者が増加 ※事前: H21.10.7(水)、期間中: H21.10.21(水)の調査データ

・市内主要路線のバス(松江市営)の乗客数が約10%増加

・大橋川を横断する自転車交通量が約30%増加等

○効果3: CO2の排出量が約15.4トン削減 ※事後の事業所アンケート結果の行動変容者数、交通実態調査結果より算出

・5日間で約3,200人が行動を変容された結果、約15.4トンのCO2排出量が削減等

○効果4: ノーマイカーの取り組みの機運の醸成 ※事後の事業所アンケート結果より

・事業所および従業員へのアンケート結果では、約80%が「今後もクルマ利用を控える取り組みを続けよう(はじめよう)と思う」、約95%が「ノーマイカーウィークを続けた方が良いと思う」と回答等

問い合わせ 松江市役所 政策部政策企画課総合交通政策室

担当 総合交通政策室長 足立 保

専門企画員 深江篤司

電話 (0852)55-5661

国土交通省松江国道事務所

担当 副所長 常松 宏

調査設計課長 加田 厚

電話 (0852)26-2131

松江市一斉ノーマイカーウィーク [H21.10.19(月)~23(金)] の実施結果について

松江市では高い自動車利用によるCO2排出の増加や慢性的な渋滞、公共交通利用者の減少などが深刻化しています。このような交通・環境問題に対し、企業や市民の皆様にも過度なクルマ利用を見直すきっかけづくりとして、山陰初となる「松江市一斉ノーマイカーウィーク」を、10月19日(月)~23日(金)にかけて実施しました。

多くの市民・企業のみなさまの協力で、期間中約100社、5日間延べ約3,200人※の方に取り組みに参加いただき、大きな効果をあげることができました。

※事後の事業所アンケート結果(市内の375事業所に実施)より集計した参加者数(マイカーからの行動変容者のみ)

<結果の概要>

1. マイカーからの転換交通手段の状況(事後の事業所アンケート結果から)

- 参加者のマイカーからの転換交通手段は、ノーマイカーウィーク期間に合わせて電動アシスト付き自転車モニター制度など、自転車の利用促進を図ったこともあり、「自転車」が32%と最も多い。
- 次いで「相乗り」(18%)、「徒歩」(16%)、「バス」(15%)の順となっている。

2. 松江市一斉ノーマイカーウィークの効果

効果1: 期間中、渋滞が大幅に減りました。

- 期間中多くの市民・企業がマイカーから公共交通や自転車・徒歩等に転換した結果、市内の主要交差点(主要渋滞ポイント等)で朝ピーク時の渋滞長が軒並み減少。
 - ・宍道湖大橋北詰交差点(東行き)の渋滞が約70%減少、JR松江東駅(南行き)の渋滞が約50%減少 等
- 今回のノーマイカーウィークでは、市・県等の行政職員も率先して取り組んだため、宍道湖大橋北詰交差点(東行き)等で大幅に渋滞長が減少したものと考えられる。

効果2: バスの乗客数、自転車利用者が増えました。

- 期間中、北循環、南循環等の市内主要路線のバス(松江市営)の乗客数が約10%増加。
- また、事後の事業所アンケート結果よりマイカーからの転換交通手段として最も多かった自転車は市内21地点において、期間中の自転車通行量が軒並み増加。(歩行者交通量は微増)
 - ・大橋川を横断する自転車交通量が約30%増加 等
- 要因としては、ノーマイカーウィーク期間に合わせて電動アシスト付き自転車モニター制度などの自転車の利用促進を図ったことに加え、松江では通勤距離5km未満の短距離マイカー通勤者が多く、身近な交通手段として、転換しやすかったこと等が考えられる。

効果3: CO2の排出量が約15.4トン削減されました。

- 5日間で延べ約3,200人がマイカーから公共交通や自転車・徒歩等に行動を変容された結果、期間中約15.4トンのCO2排出量が削減(約1,050世帯が1日に排出するCO2の量に相当)。

効果4: ノーマイカーの取り組みの機運が高まりました。

- 事業所アンケート結果では、約80%が「今後もクルマ利用を控える取り組みを続けよう(はじめよう)と思う」、約95%が「ノーマイカーウィークの取り組みを続けた方が良いと思う」と回答するなど、肯定的な意見が多くみられ、今回のノーマイカーウィークをきっかけにクルマ利用を控える取り組みの機運が醸成された。

3. 参加者からの声

① 取り組みに参加してよかったこと

- 期間中に徒歩・自転車で通勤した方からは、「運動になった」、「爽快だった」、「自転車の方が早かった」、「景色が新鮮だった」等の声が、公共交通で通勤した方からは「ゆったりとした時間がとれた」、「読書などに時間を有効活用できた」、「運転しないで済み楽だった」などの声が多く寄せられた。

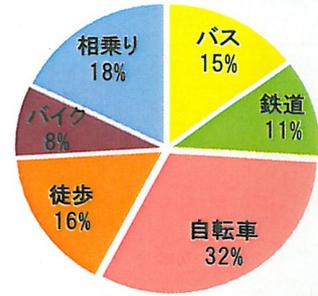
② ノーマイカーの取り組みを進める上での課題

- 今後、クルマ利用を控える取り組みを進めていく上での課題として、「公共交通の充実・利便性の向上」、「安全で快適な歩行者・自転車環境の整備」など貴重なご意見を数多くいただいた。
⇒みなさまからの貴重なご意見は環境改善の参考にさせていただきます。

1. マイカーからの転換交通手段の状況

参加者のマイカーからの転換交通手段の状況

- 参加者のマイカーからの転換交通手段は、ノーマイカーウィーク期間に合わせて電動アシスト付き自転車モニター制度など、自転車の利用促進を図ったこともあり、「自転車」が32%と最も多くなっています。
- 次いで「相乗り」(18%)、「徒歩」(16%)、「バス」(15%)の順となっています。



※事後の事業所アンケート結果より(5日間の延べ人数(3,152人))

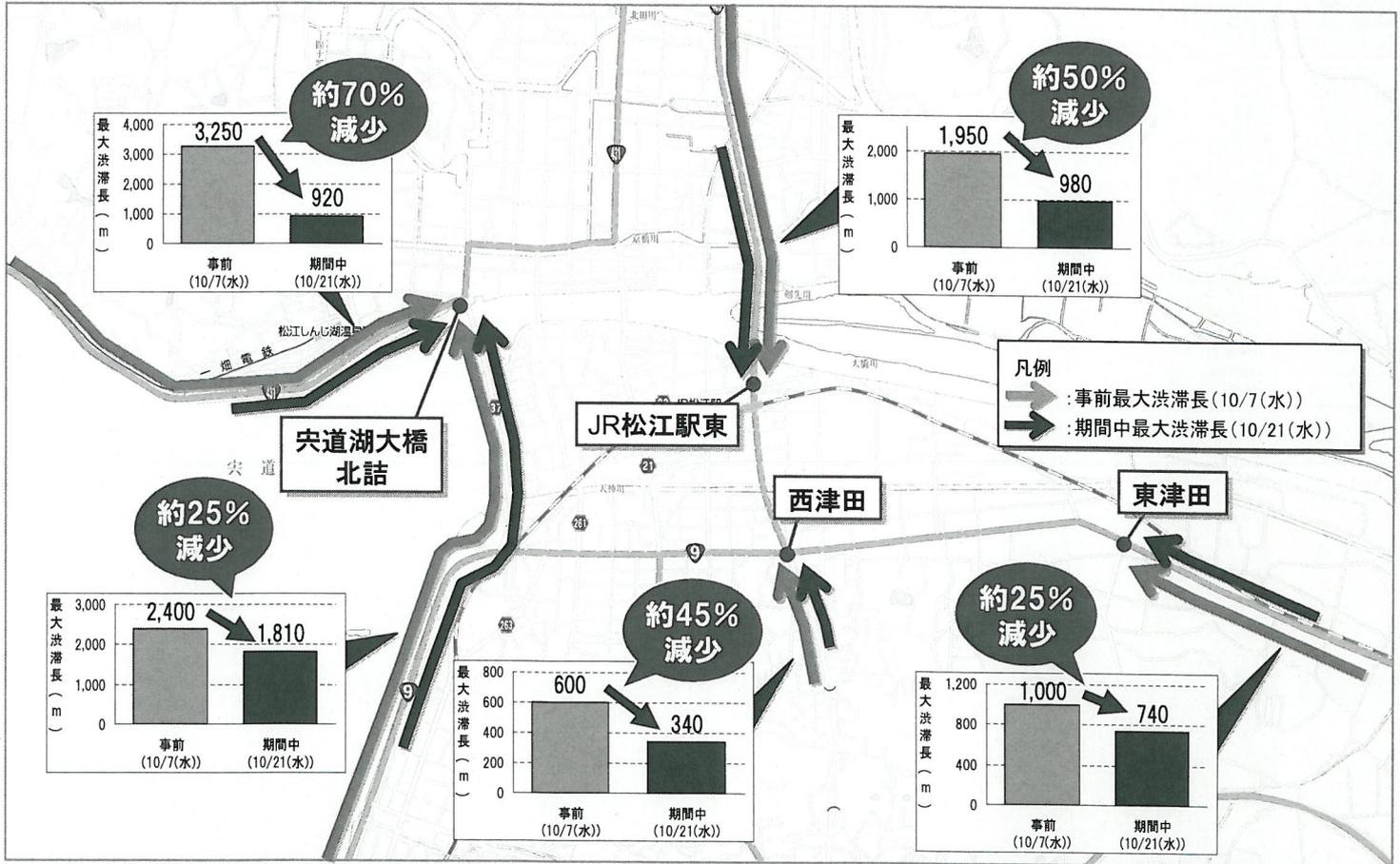
2. 松江市一斉ノーマイカーウィークの効果

効果1 期間中、渋滞が大幅に減りました。

- 期間中多くの市民・企業がマイカーから公共交通や自転車・徒歩等に転換した結果、市内の主要交差点(主要渋滞ポイント等)で朝ピーク時の渋滞長が軒並み減少しました。(下図参照)
 - ・宍道湖大橋北詰交差点(東行き)の渋滞が約70%減少、JR松江駅東(南行き)の渋滞が約50%減少等
- 今回のノーマイカーウィークでは、市・県等の行政職員も率先して取り組んだため、宍道湖大橋北詰交差点(東行き)等で大幅に渋滞長が減少したものと考えられます。

渋滞状況の比較(朝ピーク時(7時~9時)の最大渋滞長)

※調査日は事前:平成21年10月7日(水)、期間中:平成21年10月21日(水)



<宍道湖大橋北詰交差点の状況>

<JR松江駅東交差点の状況>



平成21年10月7日AM8:05頃



平成21年10月21日AM8:05頃



平成21年10月7日AM8:00頃



平成21年10月21日AM8:00頃



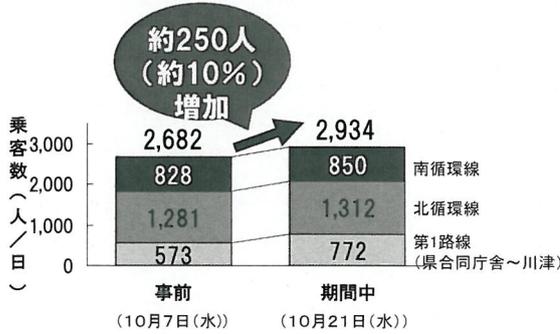
クルマの流れがスムーズになると共に歩道利用者(自転車・歩行者)が増加

効果2 バスの乗客数、自転車利用者が増えました。

- 期間中、北循環、南循環等の市内主要路線のバス(松江市営)の乗客数が約10%増加しました。
- また、事後の事業所アンケート結果よりマイカーからの転換交通手段として最も多かった自転車は市内21地点において、期間中の通行量が軒並み増加しました。(歩行者交通量は微増)
 - 大橋川を横断する自転車交通量が約30%増加等 ※央道湖大橋、新大橋、大橋、くにびき大橋の4橋の合計
- 要因としては、ノーマイカーウィーク期間に合わせて電動アシスト付き自転車モニター制度などの自転車の利用促進を図ったことに加え、松江では通勤距離5km未満の短距離マイカー通勤者が多く、身近な交通手段として、転換しやすかったこと等が考えられます。

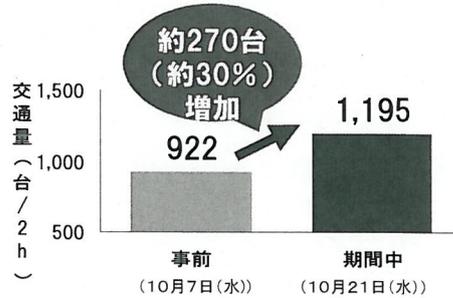
<松江大橋の状況>

■市内主要路線(松江市営)のバス乗客数の比較



■大橋川を横断する自転車交通量の比較(朝ピーク時(7時~9時))

(高校生以下を除く一般の方)



平成21年10月7日AM8:05頃

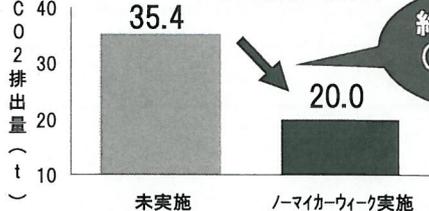


平成21年10月21日AM8:05頃

効果3 CO2の排出量が約15.4トン削減されました。

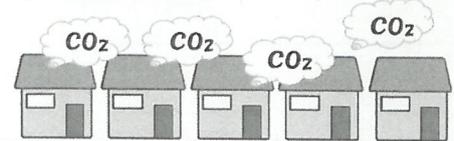
- 5日間で延べ約3,200人がマイカーから公共交通や自転車・徒歩等に行動を変容された結果、期間中、約15.4トンのCO2排出量が削減されました。
- これは、約1,050世帯が1日に排出するCO2の量に相当します。

■ノーマイカーウィークによるCO2削減量(5日間の合計)



※事後の事業所アンケート結果の行動変容者数、交通実態調査結果より算出
未実施は、行動変容者が全てマイカーで通勤した場合の数値

約1,050世帯が1日に排出するCO2量に相当

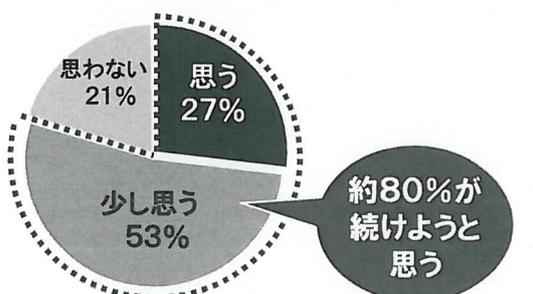


※家庭からのCO2排出量は世帯あたり14.7kg-co2/日
(全国地球温暖化防止活動推進センターWebサイトより)

効果4 ノーマイカーの取り組みの機運が高まりました。

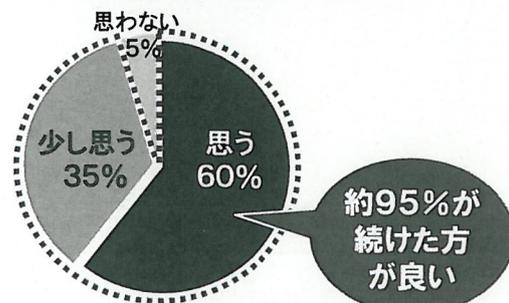
- 事業所アンケート結果では、約80%が「今後もクルマ利用を控える取り組みを続けよう(はじめよう)と思う」、約95%が「ノーマイカーウィークの取り組みを続けた方が良いと思う」と回答するなど肯定的な意見が多くみられ、今回のノーマイカーウィークをきっかけにクルマ利用を控える取り組みの機運が高まりました。

■今後、クルマ利用を控える取り組みを続けよう(はじめよう)と思うか?



※事後の事業所アンケート結果より(N=680人)

■今後もノーマイカーウィークの取り組みを続けた方が良いと思うか?



※事後の事業所アンケート結果より(N=680人)

3. 参加者からの声

① 取り組みに参加してよかったこと

- 期間中に徒歩・自転車で通勤した方からは、「運動になった」、「爽快だった」、「自転車の方が早かった」、「景色が新鮮だった」等の声が、公共交通で通勤した方からは「ゆったりとした時間がとれた」、「読書などに時間を有効活用できた」、「運転しないで済み楽だった」などの声が多く寄せられました。

- ・ 徒歩通勤することで道端の自然に親しめた。健康増進が図られた。
- ・ 普段と違う町並みを感じられてよかった。
- ・ クルマ通勤と自転車通勤で時間が変わらなかった。
- ・ 自転車通勤してみて、渋滞するクルマよりも早く着くことができた。
- ・ 自転車通勤してみると思ったより早く爽快だった。周りの景色が新鮮で気持ちよかった。
- ・ 自転車通勤が適度な運動になりよかった。クルマの運転中では気づかない季節を感じる事ができた。
- ・ 適度に体を動かすことにより、職場についてから直ぐ仕事モードになれた。
- ・ バス通勤は思ったより時間がかからなかった。
- ・ バスの中で読書をする事ができ通勤時間を有効利用してゆっくり自分の時間を持つことができた。
- ・ バス通勤は風景も変わり意外な一面があった。
- ・ 鉄道通勤することでゆったりとした時間がとれた。
- ・ 少しだけCO2削減に協力できた。等

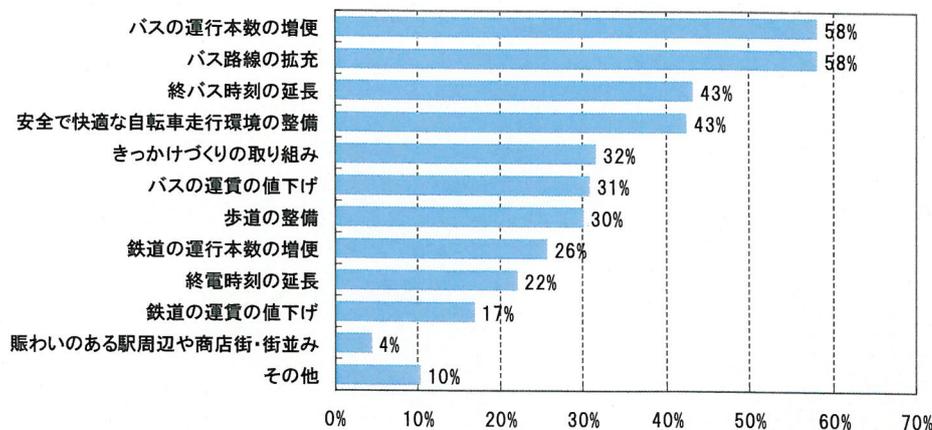
※事後の事業所アンケート結果より

② ノーマイカーの取り組みを進める上での課題

- 今後、クルマ利用を控える取り組みを進めていく上での課題として、「公共交通の充実・利便性の向上」、「安全で快適な歩行者・自転車環境の整備」など貴重なご意見を数多くいただきました。
- みなさまからの貴重なご意見は環境改善の参考にさせていただきます。

- ・ バスや電車の本数が少ない、終バス時刻が早い等の問題が解消されないと公共交通の利用は難しい。
- ・ バス路線の充実が必要。
- ・ 通勤時間帯のバスの便が悪い。通勤時間帯はバスがかなり遅れる。
- ・ 自転車通勤してみて、歩道や路肩が狭いなど、危険を感じる箇所が多くあった。自転車や歩行者の安全を確保する環境整備が必要と感じた。
- ・ 歩道の段差があり、自転車で走りにくい。
- ・ 自転車道の整備。等

<今後、クルマ利用を控える取り組みを進めていく上で重要だと思うこと>



※事後の事業所アンケート結果より(N=136社)

市民のみなさまが、少しずつ力を集結することでCO2削減や渋滞緩和、公共交通の利用促進に大きな効果をあげることができました。

今後も引き続き松江市のより良好な交通と環境の実現に向けた市民・事業所への意識啓発を継続して実施していく予定です。

<施策の概要>

- 松江市の通勤における自転車分担率は7%であり、中四国地方の他都市と比較しても著しく低く、通勤交通手段として認識されていない状況。朝夕の慢性的な交通渋滞やCO2排出を増加させる一因にもなっている。
- そのような状況を踏まえ、マイカーからの転換支援策として、短距離マイカー通勤者などに自転車を実際に利用してもらい、その良さを実感してもらうことで、マイカーからの転換促進に繋げることを目的に本事業を実施。
- 平成21年9月下旬より募集を開始し、定数を超える23事業所より貸し出しの希望あり。
- その中から、事前の意向調査より把握した、ノーマイカーウィーク期間中の参加日数や業種などを総合的に勘案し、10事業所を選定。10月中旬より貸し出し。モニター期間は1～3ヶ月。

<ノーマイカーウィーク期間中の利用状況>

- 松江市一斉ノーマイカー期間中の電動アシスト付き自転車の利用状況は、1社1日あたり10km弱であり、主な利用目的は職員の通勤。日中は業務移動にも積極的に活用されている。
- 「通勤距離が10km以上あったが、電動自転車という事もあり、快適に通勤できた。ぜひ今後も続けたいと思う。」等の声もあり、マイカーの代替交通手段としての自転車の転換可能性が示唆される結果となっている。

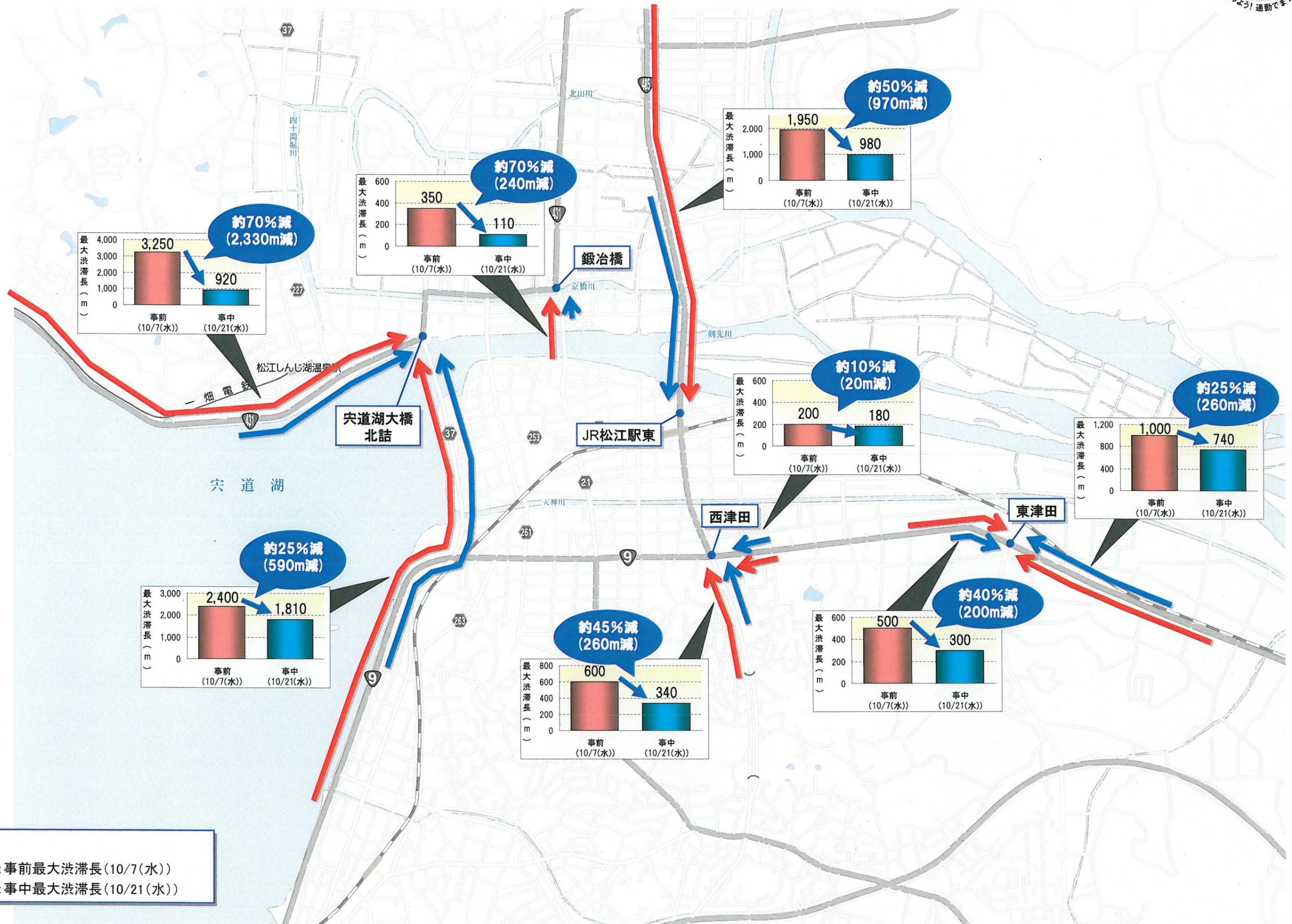
<モニター企業からの声(感想)>

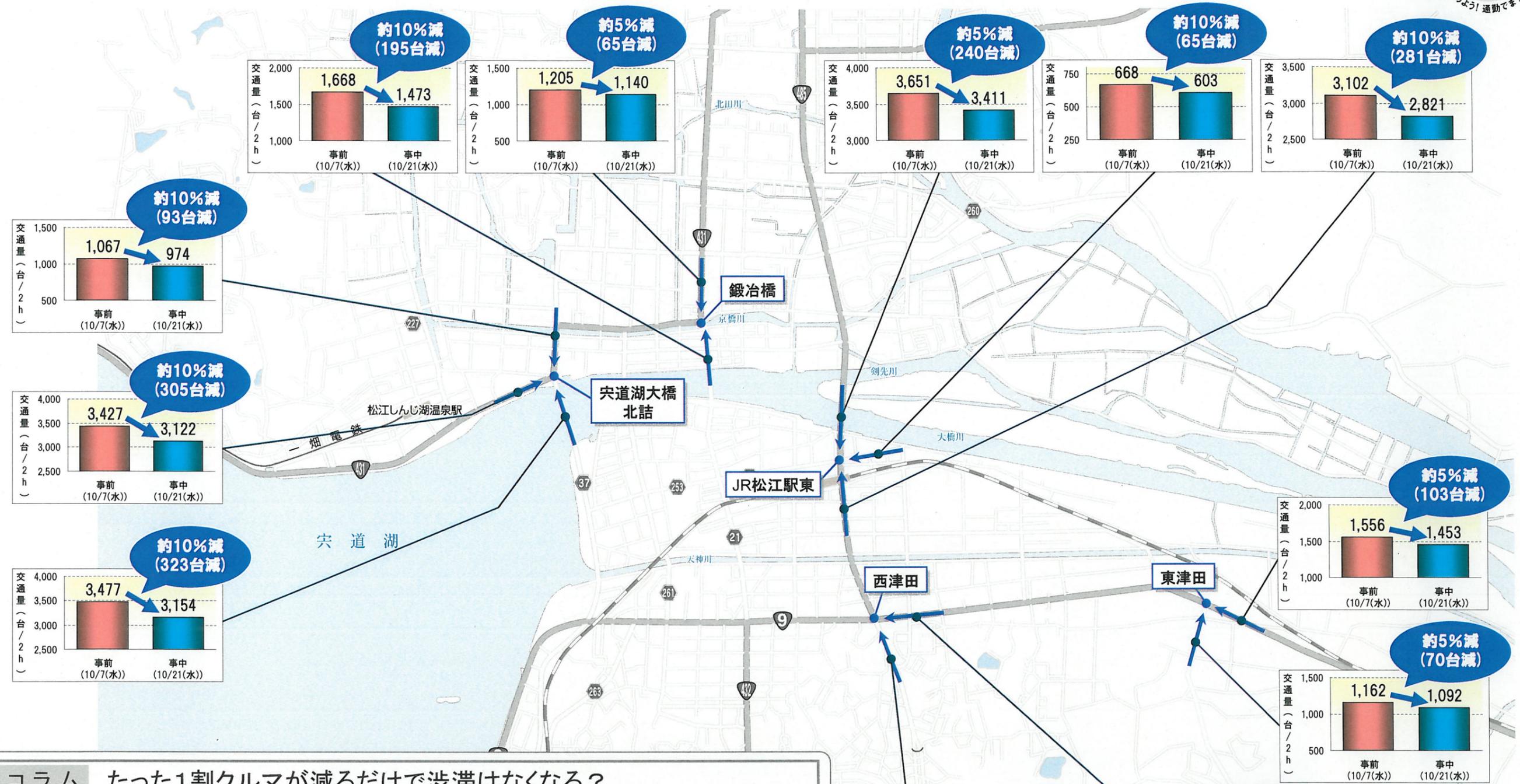
- ・今回の自転車利用者は2名とも通勤距離が10km以上あったが、電動自転車という事もあり、快適に通勤できた。ぜひ今後も続けたいと思う。
- ・今回参加してみて、クルマ社会を実感した。自転車は意外と便利であると思い、機会があれば継続して利用していきたい。
- ・今回お借りした電動アシスト付き自転車を利用した職員全員が初めての利用で、その快適さにとても感動していた。私もアシスト付き自転車は初めての体験だったので、坂道走行はもちろんだが、走り出しのスムーズな事には驚いた。これであれば、多少距離が長くても自転車での移動はさほど苦にならないのではないかと思った。1人でも多くの職員が1回でも多く利用するように今後も推進していきたいと思う。
- ・期間中は天候の良い日も続き、気温もそれほど低くなかった為、自転車を活用できて良かったと思う。これからの時期は気温が低くなり、風が冷たくなるので、体調管理も重要になるのではないかと思った。春や夏だと快適に自転車を活用できるのではないかと思った。
- ・積極的に自転車を利用する者とそうでない者と差が出た。
- ・天気の良い時は爽快。CO2を出していない事がいいと思う。慣れないとすれ違う時など運転が怖いと思う事もある。

等

参考2：西津田交差点付近大気汚染物質質量(常時観測)の状況

- 松江市一斉ノーマイカーウィーク期間中の西津田交差点付近大気汚染物質質量(常時観測)の状況に変化は見られなかった(浮遊粒子状物質(SPM)、一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO2)、窒素酸化物(NOx)、一酸化炭素(CO))。





コラム たった1割クルマが減るだけで渋滞はなくなる?

松江市では朝夕の通勤時間に日々渋滞が起っています。ではこの渋滞、どれくらい車を減らせばなくなるのでしょうか?

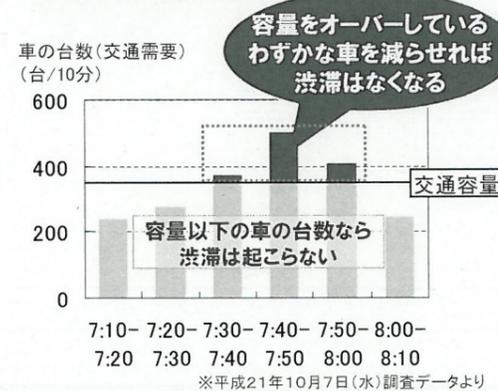
渋滞は、交通容量を上回る車がある時間に集中することで起こります。この容量をオーバーしている車の台数は、平日の日常的な渋滞の場合、1時間単位で見ると数%~十数%程度であることが知られています。

※出典:交通渋滞徹底解剖(社)交通工学研究会発行

例えば、宍道湖大橋北詰交差点(東進)では最大3km以上の渋滞が起きていますが、今回のノーマイカーウィークでは、市民の皆様の取組により、普段より10%車が減ったことで渋滞が70%削減される効果がありました。

今回のように、みんなで少しずつ、週に1日でも取り組むことが市内の大きな渋滞緩和に繋がります。

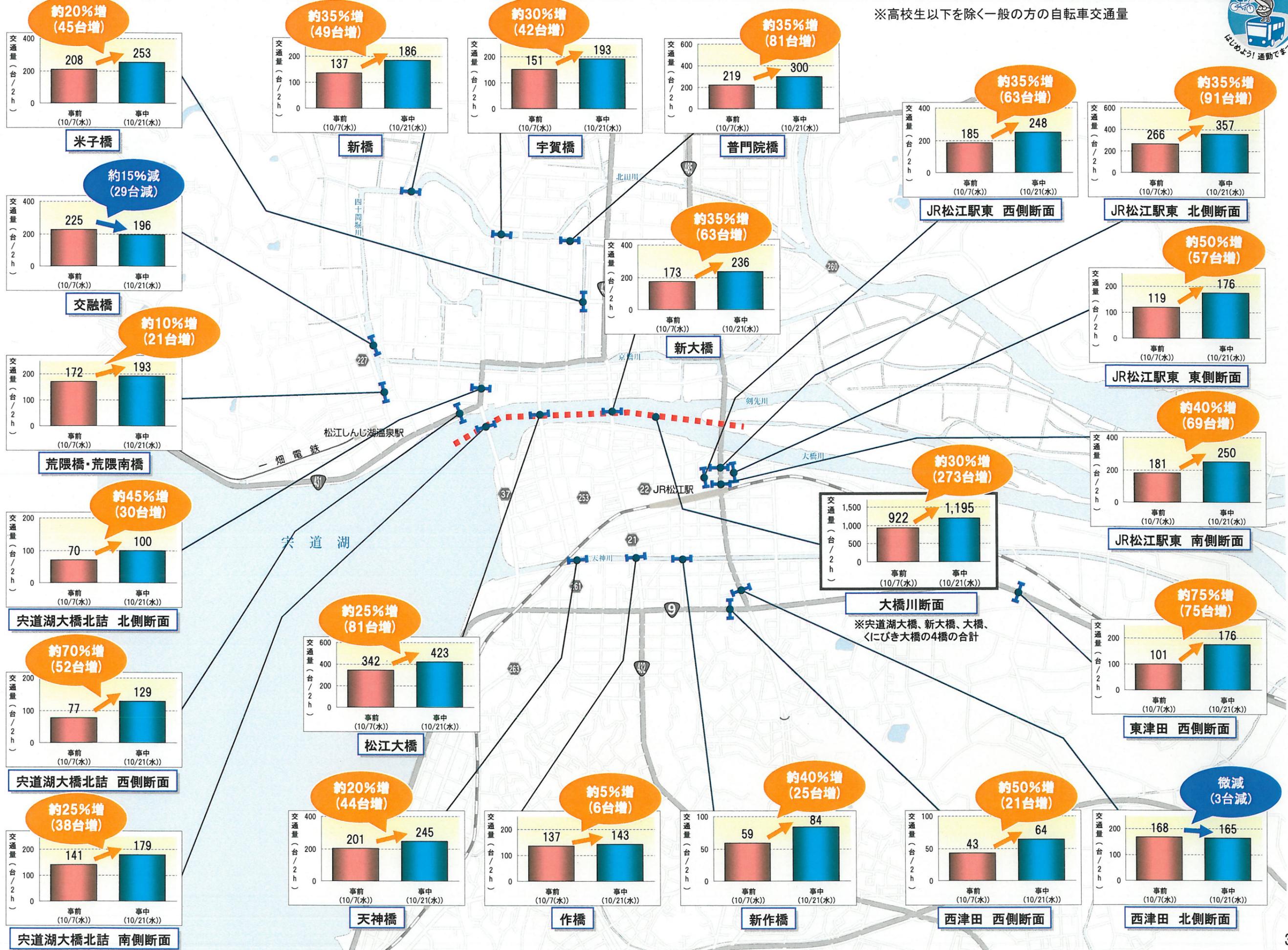
■宍道湖大橋北詰交差点(東進)の自動車交通量(交通需要)



松江市一斉ノーマイカーウィーク ③自転車交通量※の比較（朝ピーク時(7時～9時)）



※高校生以下を除く一般の方の自転車交通量



松江市一斉ノーマイカーウィーク ④歩行者交通量※の比較（朝ピーク時(7時～9時)）



※高校生以下を除く一般の方の歩行者交通量

